

令和5年度 公立瀬戸旭看護専門学校 自己点検・自己評価結果

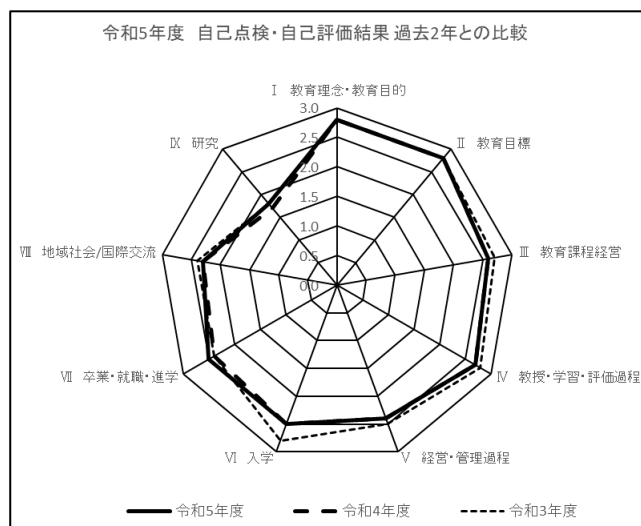
平成30年度より、「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」を基に点検項目を決め、自己点検・自己評価委員会を開催し、全教員による評価点数の平均値により自己点検・自己評価を実施しています。さらに、令和元年度より、自己点検・自己評価の客観性と透明性を高めて学校運営の改善を図るために、「学校関係者評価委員」の方々にも評価していただいておりますので、これまでの結果と共に、令和5年度の自己評価内容および学校関係者評価結果を公表します。

1. 自己点検・自己評価の結果

点検項目の評価は、「3：当てはまる」「2：やや当てはまる」「1：当てはまらない」の3段階とし、カテゴリー毎に点数を総計し、その平均値を評価の結果としています。

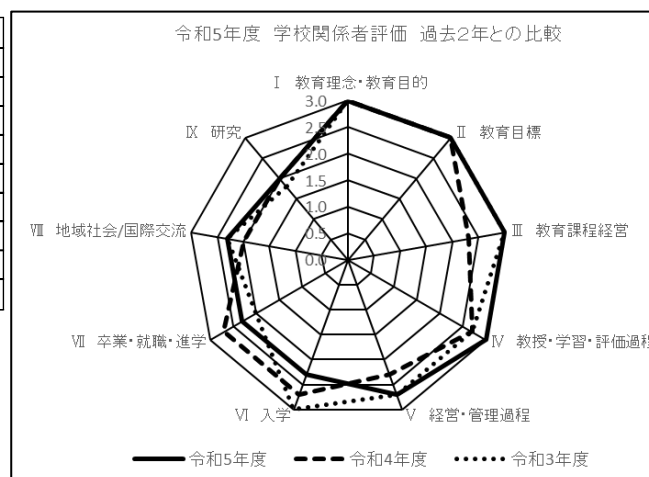
1) 令和3年度～令和5年度 内部評価の結果

カテゴリー	項目数	評価結果		
		令和5年度	令和4年度	令和3年度
I 教育理念・教育目的	11	2.8	2.8	2.8
II 教育目標	7	2.8	2.8	2.8
III 教育課程経営	31	2.6	2.6	2.7
IV 教授・学習・評価過程	17	2.7	2.7	2.8
V 経営・管理過程	30	2.4	2.4	2.5
VI 入学	2	2.5	2.5	2.8
VII 卒業・就職・進学	8	2.5	2.4	2.4
VIII 地域社会/国際交流	10	2.3	2.3	2.4
IX 研究	3	1.8	1.7	1.8



2) 令和3年度～令和5年度 学校関係者評価の結果

カテゴリー	令和5年度	令和4年度	令和3年度
I 教育理念・教育目的	3.0	3.0	3.0
II 教育目標	3.0	3.0	3.0
III 教育課程経営	3.0	2.3	3.0
IV 教授・学習・評価過程	3.0	2.7	2.7
V 経営・管理過程	2.7	2.3	2.7
VI 入学	2.3	2.7	3.0
VII 卒業・就職・進学	2.3	2.7	2.0
VIII 地域社会/国際交流	2.3	2.0	2.3
IX 研究	2.0	2.0	1.8



3) 自己評価内容（評価の概要、今後の課題）

カテゴリー	自己評価（評価の概要、今後の課題）
一 教育理念・教育目的	<p>教育理念として、設置主体である瀬戸・尾張旭市の地域住民の健康と福祉の向上に寄与すること、人間尊重の精神を持つ感性豊かな看護師を育成することを掲げ、教育目標とともに学生便覧、授業概要、ホームページ、学校案内パンフレット等に掲載している。また、ディプロマポリシー等3つのPについても掲載し、学生及び地域に対しても周知を図っている。</p> <p>学生に対し、教育理念を具現化として目指す看護師像に到達するための1年間の学習内容に対応した学習目標を提示して、年度始めに学生毎にガイダンスを実施している。</p> <p>教育理念等の学生への浸透については、学生に実施したアンケート結果から、認知度は新カリキュラムの学生は、旧カリキュラムの学生よりも0.6ポイント以上の上昇がみられた。新カリ以降の意図的な働きかけの成果とみられる。今後も学生が常に意識できるように、授業や実習など様々な教育活動において働きかけることが大切である。</p>
二 教育目標	<p>教育理念・教育目的を基に教育目標を6項目あげ、その目標毎に内容を具体的に明文化している。</p> <p>教育理念に対して教育目的・教育目標は対応しており、一貫性がある。また、教育目標については、社会のニーズに応える内容としている。また卒業時の到達やゴールとしてのディプロマポリシーを、知識・理解、思考・判断・表現、関心・意欲・態度、技能の内容ごとに挙げて学生にわかりやすく提示している。令和4年度から新カリキュラムを実施していくにあたり、改正の意図に沿った見直しをし、より具体的な表現とした。ホームページ上にも掲載し、学生だけでなく、地域への周知も図っている。</p>
三 教育課程経営	<p>教育課程は、教育理念・教育目的に沿って学習目標や内容を考慮し、序列化して構築している。各授業は、学生が理解しやすいよう工夫し、授業評価を得ながら改善を図っており、科目配列に関しては学生の効果的な学びに繋がるようにしている。</p> <p>コロナ感染症対策について、特に臨地実習では引続き実習施設と連携しながら実施でき、カリキュラムを終了できた。</p> <p>教員配置として、基礎看護学7人、成人看護学3人、在宅・小児・母性・精神・老年看護学は2人ずつで担当し、それぞれ担当が主となり、講義・実習の企画、指導・評価を行っている。今年度は1名が教員研修に参加していたため、例年よりも講義時間数が多い教員が多かった。そのため臨時実習指導教員を配置し実習時間数については教員間に偏りがないようにできた。</p>
四 授業・学習・評価過程	<p>各分野の講義設定の考え方は、「授業概要」に明文化されており、各授業を分野ごとのまとまりとして捉え、構成している。</p> <p>科目毎の評価は、科目講義内容や試験方法などを専任教員全体で検討した上で、他の関連教科との整合性を保ち、かつ科目の評価も偏らずに行えている。</p> <p>シラバスは、「授業概要」に全科目を掲載しており、学年進級時に変更があれば修正版をその都度配布している。さらに各看護学では必要であれば詳細な講義計画を初講時に配布している。各科目の内容は明確にしており、他の科目との関連や重複などについてもマトリックスを作成し見直しをしている。</p> <p>授業形態は、授業内容に応じて決定し、演習等では教員を適数配置し、指導が行き届くようにしている。今年度はコロナ禍前の状況にほぼ戻すことができ、シミュレーション教育や協同学習も積極的に取り入れ、学生が主体的に取り組めるように工夫している。</p>

カテゴリー	自己評価（評価の概要、今後の課題）
経営・管理過程 ≪	<p>組織体制は、学則・校務分掌要綱において規定している。また、教育活動に関する意思決定については、運営委員会や各種委員会等において審議のうえ校長が決定する体制としており、その決定事項を教職員に周知している。</p> <p>予算については、所定の予算要求手続きを経て決定されるが、設置自治体の財政状況は厳しい。このため、要求にあたっては事業の優先順位やもたらす効果などについて十分な検討を行っている。また、予算の執行についても財務規定に則り適正な執行に努めており、毎月、定期監査を実施している。</p> <p>開校以来 30 年以上経ち、施設設備の老朽化が目立つ。今年度も故障設備に対する対処は実施できているが、今後も施設整備や教材備品等の購入を計画的に行い、充実した教育環境を整えるよう取り組んでいく。</p>
入学 ≨	<p>入学者の選抜については、受験倍率・受験者数の推移を考慮して入学試験（一般・推薦・社会人）を実施しており、入試委員会の審議を経て入学者を決定している。</p> <p>今年度も感染対策を実施しながら入試を実施できた。結果、いずれの入試でも別室受験の該当者はなかった。指定校推薦入試では受験者数の増加があったが、社会人・一般入試については受験者数が減少した。新たに指定校の拡大を図った成果でもあったが、社会人・一般入試についての受験者数の確保は課題である。</p> <p>質の高い入学者を獲得するためには、受験者を一定数以上確保することは重要である。今後一層、広報活動の充実を図ると同時に、社会情勢を踏まえた入学者の選抜方法を検討していく必要がある。</p>
卒業・就職・進学 ≩	<p>国家試験の合格者割合は、近年 96～100%を維持し全国平均を上回っており、その維持・向上に向けて、計画的に 3 年間の学習計画を策定し実施している。</p> <p>国家試験対策として、成績不振な学生に対して手厚い個別指導を行っているが、今後も引き続き強化し、合格率 100%を目指していく。</p> <p>卒業生の 6 割以上は瀬戸旭地域の医療機関に就職している。昨年動向調査を実施し、本校で受けた教育が今の看護師としての活動に活かされているという意見が得られた。次回は令和 6 年に実施予定である。</p> <p>また卒業生の多くは各医療機関の実習指導者となっており、当校の非常勤講師として後輩の育成に尽力されている卒業生もある。</p>
地域社会／国際交流 ≯	<p>学生は、環境ボランティアとしての清掃活動を全学年で行い、地域におけるボランティア活動として、実習病院での催しや各種イベントへも参加・協力している。</p> <p>教員による専門分野を活かした社会貢献としての、外部機関への講師として派遣、臨地実習指導者講習会の講師や教育実習については実施ができた。</p> <p>国際的視野を広げるため、国際看護の基本理念の理解やその方法を考える授業を取り入れている。図書室に関連の文献や DVD を所蔵して学生の国際交流への関心や意識を高めるよう努めている。</p>
研究 ㄨ	<p>全ての教員が、いずれかの研修会等に参加できるように年間計画を立て実施している。また、昨年からは全員で閲覧できる「看護教員のためオンラインコンテンツ」も利用できるように契約し、教員の研鑽の機会を確保している。</p> <p>組織的・計画的な研究活動の実施体制は、十分とは言えない現状がある。</p> <p>今後も引き続き教員の研究活動が組織的に進められる体制づくりを検討していく。</p>